

みほとけ

〒339-0008 さいたま市岩槻区表慈恩寺990

TEL 048-794-1759

FAX 048-794-3388

E-mail jyougenji@hotmail.com

常源寺と檀信徒をつなぐ

無財の七施

七月となり、早くも一年の半分が過ぎ去りました。この「七」という数字は、七福神、七五三、七変化などの言葉があるように、私たち日本人にとっては大変意味の深い数字です。仏教においても「無財の七施」という教えがあります。「施」とは文字どおりに「施す」という意味で、布施のことを指します。皆様が布施と聞くと、御葬儀や御法事の際にお寺や僧侶に渡す金銭のことを思い浮かべる方がほとんどかと思いますが、「分け隔てなく施す」という意味で、布施は仏教における重要な修行の一つです。布施は、「施しを必要とする人が、施しを受けることによって救われる」というイメージがありますが、実は「施しをすることによって、施しをした人の方が幸せな気分になれる」ものなのです。しかし、世の中には「お布施をしたいけど財産がない」という人もいて、これでは仏道の修行ができないことになってしまいます。そのような人たちのために財産が無くても人に幸せを与える方法があり、それがお釈迦様の説かれた「財産や智慧がなくても七つの施しができる」という「無財の七施」と呼ばれる教えなのです。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 眼施 (がんせ) | 常に優しい眼差しで人と接すること |
| 2. 和顔施 (わがんせ) | いつも和やかに笑顔で人と接すること |
| 3. 言辞施 (ごんじせ) | 優しい言葉で人と接すること |
| 4. 身施 (しんせ) | 自分の身体で奉仕すること |
| 5. 心施 (しんせ) | 他の人に対して心配りをする事 |
| 6. 床座施 (しょうざせ) | 他の人に席や地位を譲ること |
| 7. 房舎施 (ぼうじゃせ) | 自分の家や部屋を提供すること |

日頃から他人に対しての思いやりの心を持ち、「無財の七施」を実践できるように心がけていきたいものです。



本堂に映える紫陽花

■ 暮らしの中の仏教用語

大袈裟 (おおげさ)

実際よりも大変なように言ったり、誇大したりすることを大袈裟と言います。

袈裟とは、僧侶が衣の上に身に着けている法衣のことで、大袈裟とは、文字通り大きな袈裟という意味です。

仏教をお開きになったお釈迦様の時代には、道端に捨てられている布切れを拾ってつなぎ合わせて衣を作っていました。これを糞掃衣と呼び、衣は極めて粗末な衣服でした。その後、仏教が中国や日本に伝わると、袈裟は、華美で装飾的なものとなり、儀式用に着用されるようになりました。僧侶がそのような大きな袈裟を仰々しく身におおきく着けている様子から、規模の大きいこと、大仰なことを意味するようになったようです。

◇ 仏教なんでもQ&A ◇

Q お焼香は何回すれば良いですか？

A お焼香の回数については、同じ仏教でも宗派によって多少の違いがあります。曹洞宗では、お焼香を2回行うことが通例とされています。まず、お焼香の前に合掌し、1回目は右手でお香をつまみ、軽く左手を添えて額に押しいただき、念じてから焼香をします。次に、1度目に焼香したお香のそばに2度目の焼香をします。2度目は額に押しいただくずにそのまま焼香します。これを従香と言います。最後にもう一度合掌してお焼香は終わりです。

ただし、会葬者が多い場合や葬儀会場によっては、お焼香は1回で行うように指示がある場合もありますので、その時の指示に従うようにしましょう。

お盆を迎えて

古来より日本人は、先祖を敬い大切にしてきた国民だと言われています。その心が端的に表れるのがお盆やお彼岸などの仏教行事や先祖供養への参加です。

日本では、亡きご先祖様が年に二回ほど自宅へ戻ってくると信じられてきました。一つはお正月、もう一つがお盆です。お盆は、正式には「盂蘭盆会」と言い、「仏説盂蘭盆経」というお経がもとになって生まれました。ご先祖様が帰ってくるお盆に先祖の霊を慰め、苦しみから救い、より良い世界へ送りたいと願うのがお盆のはじまりだと考えられています。

地域によって多少の違いはありますが、お盆の期間は一般的に、7月13日から16日、または、8月13日から16日とされています。お盆は4日間もの間ご先祖様がその家に留まっているわけですから手厚くお迎えして共に過ごしたいものです。お盆は亡き人との繋がりをもっとも強く感じる期間であり、一家にとってはかけがえのない期間なのです。

お盆には、帰ってきたご先祖様がゆっくり休まれる部屋を用意します。この部屋が精霊棚（盆棚）です。棚の上には、ご先祖様のお位牌、季節の野菜や果物、そうめん、故人様が生前に好きだったものなどをお供えします。棚を整えるのが難しい場合は、お仏壇の前に小机を置き、テーブルクロス等を敷いてお位牌やお供物を供えるようにするとよいでしょう。

お供えの一例



盆棚の一例



中学生が職場体験を行いました

さいたま市中学生職場体験事業として、6月19日（水）からの3日間はさいたま市立城北中学校の生徒3名が、7月8日（月）からの3日間はさいたま市立桜山中学校の生徒6名が、常源寺でそれぞれ職場体験を行いました。これは、望ましい勤労観や職業観を身に付けることを目的として、学校近隣の事業所等で3日間の職業体験をするもので、さいたま市立のすべての中学校で実施されている事業です。暑さの中、生徒たちは本堂や境内の清掃、お盆の大施食会の準備等を体験しました。参加した生徒からは「働くということを身近に感じることができるきっかけになった」、「普段は知ることのできないお寺の仕事を知ることができて良かった」などの声が聞かれ、学校の授業では学ぶことのできない貴重な体験となったようです。



護持会費納入のお願い

檀信徒の皆様におかれましては、護持会費の納入に御理解と御協力をいただき、感謝申し上げます。皆様からいただいた護持会費は、境内の整備等のために大切に使用させていただいております。令和6年度分の護持会費をまだお支払いでない方は、お早めに納入をお願いいたします。御理解と御協力をお願いいたします。